

平成25年度助成研究の概要

厚生労働省など、国の機関及び公益法人などの公募により採択された研究です。
 本年度は、文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム」2課題、神奈川県公衆衛生協会「調査研究助成」1課題、公益財団法人 大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究助成」2課題、財団法人 旗影会「研究助成」1課題、公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団「研究助成」1課題を実施しています。

文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム」

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	大屋日登美	微生物部 細菌・環境生物G	マイコプラズマ肺炎の迅速診断法の確立とその製品化 肺炎マイコプラズマは、異型肺炎をはじめとした呼吸器感染症の起因菌で、小児科領域においては重要な病原菌である。最近、肺炎マイコプラズマ感染症の重症例あるいは薬剤耐性肺炎マイコプラズマが出現しており、早期診断と早期治療の必要性から本症の迅速・簡便な診断法の開発が望まれている。本研究では、北里大学で開発予定の肺炎マイコプラズマの迅速簡便な抗原検出診断キットの性能を評価、検討し、肺炎マイコプラズマ感染症の迅速・簡便な検査法の開発を支援する。
2	大森清美	理化学部 食品化学G	生体内代謝を考慮した細胞形質転換試験法の開発 Bhas42細胞形質転換試験は、簡便かつ高感度に食品添加物、化学物質等の発がんイニシエーター、プロモーター活性を評価できる優れた評価系であり、特に発がんプロモーターを高感度に検出できるオンリーワンの試験法であるといえる。しかし、培養細胞での安全性試験では、代謝系が生体内とは異なるため、代謝産物による影響を正確に評価できない点が課題となっている。 本研究テーマでは、ヒト代謝系をBhas42細胞に加えることにより、現在の試験法では検出できない、発がんプロモーション活性を評価できる新規Bhas42試験法を開発する。

神奈川県公衆衛生協会「調査研究助成」

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	渡邊寿美	微生物部 ウイルス・リケッチアG	インフルエンザウイルス(AH1pdm09)HA遺伝子変異及び鳥インフルエンザA(H7N9)の調査 現在、重症例を中心に新型インフルエンザウイルス(AH1pdm09)の病原性に関与する分子疫学研究を行っているが、今後さらに軽症例を含めたHA遺伝子の解析を行い、流行ウイルスの特徴を解析することにより、予防接種(ワクチン)に使用する株の選定等に役立てる。また、現在流行が懸念されている鳥インフルエンザA(H7N9)の調査・解析(対象は神奈川県内の渡航後のインフルエンザ患者)を併せて行い、こうした調査や解析データの積み重ねにより、県内でのインフルエンザ流行時の対策及び鳥インフルエンザ早期発見等、県内の公衆衛生に寄与できると考える。

公益財団法人 大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究助成」

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	古川一郎	微生物部 細菌・環境生物G	神奈川県内の愛玩動物における動物由来感染症の病原体保有状況について わが国では高齢化社会を迎え、高齢者の医療対策の一つである感染症対策が急務となっている。本研究では、高齢者が愛玩動物と接する接触する機会が増加しているという現状を踏まえ、県民に対し動物由来感染症の感染予防に向けた啓発を目的として、カブノサイトファーガ感染症、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症およびオウム病の愛玩動物との関連が指摘される動物由来感染症について、病原体の保有状況の調査、さらに病原体の高感度な検出法あるいは分子疫学的解析法を検討する。
2	佐野貴子	微生物部 ウイルス・リケッチアG	神奈川県で検出されたコクサッキーウイルスA6型の分子系統解析と臨床症状との関連 神奈川県で手足口病を引き起こしたCA6型株の遺伝子学的特徴やその浸淫時期等を検証することは、今後の流行を監視する上で重要である。そこで本研究では、神奈川県で検出されたCA6型株について過去に遡って遺伝子解析を実施し、海外で報告されたCA6型株の遺伝子データと合わせて分子系統解析を行う。さらに、分子系統解析結果と患者の臨床症状との関連についても調査する。得られた成果を学会等で広く情報提供することで、我が国における地域的特徴を有するウイルス疫学情報の重要性と有用性を示し、その充実に寄与したいと考える。

財団法人 旗影会「研究助成」

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	渡邊裕子	理化学部 薬事毒性・食品機能G	変性卵白を用いた経口免疫寛容誘導メカニズムの解析 BALB/cマウスを用いた食物アレルギーモデルマウスの変性卵白に対する応答を解析し、卵白主要アレルゲンであるオボアルブミンに対し、アレルギー症状を誘発することなく寛容を誘導できるかを検討し、そのメカニズムの解明を行う。

公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団「研究助成」

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	秋山晴代	理化学部 薬事毒性・食品機能G	交差反応性・抗原量・形態に着目した新たな食物アレルギー <i>in vitro</i> 評価法の開発 スギ花粉症における口腔アレルギー症候群合併率は7~17%程度であるが、共通抗原性を持つタンパクを含む果物・野菜があるため、重症化する可能性もあり注意が必要となる。食物アレルギーの基本的な治療法は原因アレルゲンを含む食品の除去があるが、栄養学的障害だけでなく、患者やサポートする者に多くの日常的負担を強いる。そこで、近年開発されたEXiLE(IgE Crosslinking-induced Luciferase Expression)法を用いて、交差反応性、抗原量、形態に着目したアレルギー評価法開発を行う。